

2020 年 10 月 8 日

杉本 肇（すぎもと・はじめ）さん

2008 年 5 月から水俣市立水俣病資料館語り部の会副会長、やうちブラザースリーダー

1. 家族の状況

祖父（進さん）：茂道の 4 人の網元のうちの 1 人。茂道で生まれ育つ。地曳網、チリメン漁（2 艘船曳網）を戦前から戦後にかけて営んでいた。1969 年（昭和 44）年 6 月水俣病一次訴訟を提訴するも 1 ヶ月後に亡くなる。茂道からは 4 軒が訴訟に加わるも「チッソ相手に裁判するのか」と切り崩しにあい、茂道で訴訟をするのは杉本家のみとなった。水俣病認定患者

祖母（トシさん）：1959（昭和 34）年 8 月全身をけいれんさせ、口もきけない状態となり、旧水俣市市立病院（現 水俣市立医療センター）を受診し、茂道ではじめて水俣病認定された。水俣病は伝染病と騒がれた発病当時、茂道での第 1 号患者となった家は、地域から差別を受け、米を購入することもままならない状況が続いた。

母（栄子さん）：1938（昭和 13）年茂道に生まれ育ち、進さんの網を引き継ぐことを幼い頃から期待されていた。トシさんの発病と同じ頃、自身も発症。発病から 15 年後に水俣病と認定される。2 度の流産を経験し、待望の長男（肇さん）を授かる。進さんの訴訟を引き継ぎ、1973（昭和 48）年に第一次訴訟に勝訴。魚をとっても売れない市場と漁獲量も減少していた状態が 20 年ほど続き、漁業だけで生計をたてるのが厳しい状況だったこともあり、補償金で茂道の山林を購入し、甘夏ミカンをつくりはじめる。1990（平成 2）年、借金をして船を仕立て直し、再び漁業（チリメン漁）に力を注ぐ。4 男の実さんが両親とともに漁業を支え始めた。

父（雄さん）：茂道で生まれ育ち、杉本家に網子として働いていた。1956（昭和 34）年に栄子さんと恋愛結婚。トシさん、進さんの発症、認定、地域からの差別を目の当たりにし、栄子さんの病状もみていた。自身の家族から結婚に反対されたが杉本家を支え守りたいという決意のもと結婚。水俣病認定患者

2. 肇さんの足跡

1961（昭和 36）年、熊本県水俣市茂道に生まれ育つ。5 人兄弟の長男。祖父は待望の男子

であった肇さんが生まれたことを殊の外喜んだ。同じ敷地内に祖父母の離れがあり、両親は漁業で忙しくしていたこともあり、祖父母に育てられた。

祖父母、両親の体調が悪く、常に家族の誰かが入院している状況だった。小さな頃から漁業を手伝い、4人の弟たちの世話をみなくてはならない生活を余儀なくされた。高校2年生の時に沖縄へ家出する。

高校卒業後、東京で設計事務所に就職する。仕事に追われ、体調を崩すなか、茂道での漁業、豊かな海で生きていた光景を思い出すようになった。

1992（平成4）年、両親が船を購入した話を聞き、杉本網を支えるため茂道に帰郷。



図 1 昭和 30 年頃の杉本家の地曳網漁

写真：YouTube | もやいの家～水俣・杉本家の 40 年（1）（2）
<https://www.youtube.com/watch?v=1THfPeHGx5c> 2020.9.15 最終閲覧

注：手前左の 2 番目の女の子が手をついているのは、漁でつかう浮子が 5 つみえ、木製であったことがわかる。浮子の右側には木の支柱が 5 本みえるが、網を引き上げるためのカグラサンで、これを人間が回して網を引き上げる必要があった。
写真には、17 名程度が写っており、男性のほか、女性や子どもも漁を行っていることがうかがえる。